

## 大野市議会議員 林よりかず活動報告

皆さん、こんにちは。大野市議会議員の林順和です。

平成31年(2019)2月の選挙におきまして、市民の皆さまの信任を得て、大野市議会議員としての活動をスタートすることができました。

当選後、新人5人による会派「新風会・公明党」を結成し、議長等を選出する「平成31年2月第412回大野市議会臨時会」、平成31年度大野市一般会計予算案などを審議する「平成31年3月第413回大野市議会定例会」に臨みました。先月には「令和元年6月第414回大野市議会定例会」が開かれました。

これからも誇れるまち・大野のために、自らが学び、より良い大野市として将来へつないでいく。人と人のつながり、地域と地域のつながりを大切にしていく。行政運営に対するチェックと政策提言を行いながら、ともに動く政治家を目指して活動していきますので、よろしく願いいたします。

活動の一環としてこのたび「こころのよりどころ通信」を発行する運びとなりました。発行は不定期ですが、なるべく分かりやすく伝えていきます。ぜひ、ご一読いただき、ご感想などいただければ幸いです。



会派 新風会・公明党  
議会運営委員会  
民生環境常任委員会  
人口減少対策特別委員会 副委員長  
大野・勝山地区広域行政事務組合議会 副議長

林 順和

Hayashi Yorikazu  
昭和52年(1977)生まれ  
中央大学卒、現在1期目

### 「誇れるまち・大野」のために

- ① 人の育成に力を注ぎます
- ② 時代の変化への対応に力を注ぎます
- ③ 産業振興に力を注ぎます
- ④ 財政健全化に力を注ぎます



大野の魅力、発信中! <https://ameblo.jp/hysyrkz/>  
【連絡先】0779-65-0276 yori.tonchaan@gmail.com

## 林 よりかず活動記録

(平成31年2月～令和元年6月)

### 2月

- 17日 大野市議会議員選挙投票日
- 18日 当選証書授与式
- 22日 新議員説明会、議員全員協議会
- 25日 会派結成(新風会・公明党)
- 26日 本会議(第412回臨時会)、議員全員協議会
- 27日、28日 議員全員協議会

### 3月

- 4日 本会議(第413回定例会)
- 11日～13日 本会議
- 12日 林よりかず初の一般質問
- 13日 議員全員協議会
- 15日、18日 民生環境常任委員会
- 25日 本会議、議員全員協議会
- 27日 大野・勝山地区広域行政事務組合議会

### 4月

- 6日 医療問題研究会(福井市)
- 22日 議員全員協議会
- 24日 会派研修(観光について)
- 24日 市政報告会(秋葉集会所)
- 25日～26日 会派研修(総務省ほか)

### 5月

- 8日、9日 新議員勉強会
- 11日 医療問題研究会(福井市)
- 13日～17日 議員研修(JIAM)
- 24日 市人口減少対策会議
- 28日～30日 民生環境委員会研修

### 6月

- 3日 議員全員協議会
- 10日 本会議(第414回定例会)
- 17日～18日 本会議
- 17日 林よりかず一般質問
- 20日 民生環境常任委員会
- 22日 医療問題研究会(福井市)
- 24日 人口減少対策特別委員会
- 26日 本会議、議員全員協議会

※上記以外に会派会議を原則、毎週開催。会派代表者会議、議会運営委員会などに出席しているほか、各種会合、地域活動に参加しています。



初めての選挙戦、自分の思い、描く大野市の姿をお伝えさせていただきました。



学校再編や重点道の駅、人口減少、議員定数などテーマを挙げて市政報告会を開催しました。



全国の新人議員が集まる研修に参加し、行政課題への対応などを議論しました。

# 一般質問と回答

本会議の様子(動画)や議事録は大野市ホームページ「大野市議会」のページでご確認できます。



→QRコード読み取り

## 地域の力をもっと生かす

和泉自治会、地域のつながり

**問** 本市の特長といえる地域の力を生かして、持続可能な地域づくりに取り組んでいくことが、行政運営を行う上でも重要であり、人口が減る中でも自分たちの地域に誇りを持つ市民を増やすことにつながると考えるがどうか。和泉で生き続ける、そういった思いから和泉自治会がチームを組んで自分たちで何ができるか実践している。他の地域でも取り組んでいる組織や団体があるが、頑張る地域における人口減少や高齢化などの課題に対して一体的に移住施策としてPRするなど、サポートする体制が必要だと思うがどうか。

**答** 市民と行政が知恵や力を出し合い、地域の課題を自ら解決していく力を、これまで以上に高めていくことが重要である。地域の組織や団体などによる自主的な活動を支援してまいりたい。

## 新しい人をやさしく受け入れる

地域おこし協力隊、移住モデル集落

**問** 都市圏に住む田舎暮らし希望者に対するサポート体制はどうか。

**答** 市でIJUサポート会議を設置し、ハローワークや地域おこし協力隊員も参加して情報を共有している。平成25年度からは民間ならではの柔軟な取り組みとして、業務の一部を自然体験活動などに取り組む「奥越前まんまるサイト」に委託し、相談対応や移住応援マガジンの発行、移住体験ツアーなどを行っている。移住の受け入れに協力いただけるモデル集落を引き続き募集していく。

### ◎和泉自治会

和泉地区全住民をもって構成する組織。「ここに生き続けられるために」を共通の思いとする和泉地区地域づくり計画を策定し、「人・伝統チーム」「産業チーム」「生活チーム」がそれぞれ計画に沿った取り組みを進めている。

### ◎地域おこし協力隊

平成21年度に総務省が創設した制度で、三大都市圏をはじめとした都市在住者を地方自治体が受け入れ、当該自治体への定住、定着を図る取り組み。大野市には現在、6名の隊員が活動している。

### ◎移住モデル集落

移住者が住民との交流がうまくいかず、定住につながらなかったケースが全国的に多く見受けられることから、大野市では集落単位で移住者を受け入れる仕組みづくりを目指している。平成29年度からは、八町区をモデル集落として実施しており、他の集落の募集も行っている。

問 大野市総合政策課(0779-64-4824)

## 若者の声取り入れた方向性を

第六次大野市総合計画、推計人口

**問** 市の将来の方向性を示す第六次総合計画策定は、SDGsの考えも取り入れるとしている。そうであるなら、そのキックオフとして開催した若者座談会メンバーなど、子育て世代を中心に総合計画の審議、議論をすべきではないか。働き手の人口が特に減少する推計人口のデータなどをしっかり示して、意識して計画策定を行っていくべきではないか。

**答** 市全体の計画であり、市民等が主体的にまちづくりに取り組む指針でもあることから、各界各年代層や産業別代表の方は欠かせないが、若手の意見は貴重であり、一度内部で議論する。10年後どんな社会になっていくのか、悪い方向であれば切り返しができるのか、チャンスになるようなこともデータを押さえながら検討を開始する。



林 順和 議員

(補足) その後の対応として、設置された審議会メンバーに若者、女性などが参画することとなり、また今年度、大野高校生を対象に実施することとしている「私が未来の市長プロジェクト」で出たアイデアや成果などを計画に反映させていくとの説明がありました。

↓フィールドワークの中で地元商店主にインタビューする福井県立大学の学生。若い視点で本市をどう描いてくれるか、発表が楽しみです。



→関西大学建築環境デザイン研究室の学生たちがリノベーションし、活動拠点として住民との協働による運営を行っている「横町スタジオ」(旧川瀬ふとん店)。ぜひ、ふらっと立ち寄ってみてください。

◎第六次大野市総合計画  
総合計画は市の最上位計画であり、市政運営の指針としてだけでなく、市民や各種団体などが主体的にまちづくりに取り組む上での指針。本年度から2年かけて、審議会を設置し、人口減少対策や行政改革大綱など行政運営を含めた市の方向性を、この第六次大野市総合計画の中で示す予定となっている。

◎大野市の推計人口  
2030年の大野市の人口は26,323人で、2015年から6,786人減少し、その中でも特に働き手といわれる15歳から64歳の生産年齢人口は5,241人減ると推計されている。

◎SDGs(エス・ディー・ジーズ)  
2015年9月に国連の持続可能な開発サミットにおいて採択された2030年までに達成すべき保健や教育、水、衛生などに関する17の目標。大野市では、次期総合計画の策定に関する調査の中で、住民満足度を測るための物差しとして、SDGsに掲げられる17の目標を活用することなどを検討している。



## 議会の対応状況

本会議に上程された議案・陳情等の対応状況をお知らせします。

### ・新しい文化会館の整備について

(議案第2号 平成31年度大野市一般会計予算案)

新しい文化会館の整備にかかる基本設計(予算額7000万円)を執行するに当たっては、総務文教常任委員会の了承を得て行うよう、平成31年3月定例会において議会としての意思表示(決議)を付して予算を認めました。令和元年6月定例会においても委員会で議論されましたが、まだ了承は得られていません。

### ・市議会議員定数の削減について

(陳情4号 大野市議会の議員定数削減に関する陳情書)

大野市区長連合会から出された陳情書は「今後の人口の推移や財政事情を勘案して、現在の定数18人からの削減を求めるもの」です。議会内ではすでに「議員定数適正化協議会」を設置しており、その議論が行われていることから、令和元年6月定例会において「継続審査」として処理しています。

**編集後記**  
福井県立大学の学生が「観光と地域資源」テーマにフィールドワークを実施している。横町通りには市が連携する関西大学の拠点・横町スタジオがあり、お茶会やラジオ体操、朝活動など、人が集うさまざまな活動を展開している。  
市外から訪れ、本市の魅力を感じた学生やI・Jターナーと、本市で生まれ育った人が交流する接点の場を設けて、魅力や課題を語り、改善に向けて実践する。そんな動きが広がれば、本市の魅力を再認識した大野人のUターンにつながるかと。  
同時に、大野で生きる大人として、時代の変化に合わせて仕組みや考え方を柔軟に変化させ、働き方や空き家活用など戻ってこれる環境を整えていきたいと思う。